

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 6月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490101197		
法人名	社会福祉法人慈楽福社会		
事業所名	グループホーム瀬野じらく房		
所在地	広島市安芸区瀬野一丁目3番1号 (電話) 082-894-2255		
自己評価作成日	令和5年5月9日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490101197-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年6月2日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none">・ご利用者が自分らしく、健康で安心して過ごしていただけるように、日々ご利用者の思いに寄り添い笑みを絶やさぬように、職員一同心掛けしています。・ご家族様や知人、地域の方々を訪れやすい施設を目指しており、ご家族様・親戚の面会が多くあります。・毎日、歌を歌ったり、体操・口腔体操を行い、体力作りを支援しています。・それぞれのご利用者ができる事をしてもらう事で役割意識を持ち、達成感のある毎日を過ごせるよう支援しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>職員全員で考えた施設標語の目標『ひとりひとりの心を受け止め、温もりを届けよう』をモットーに心のこもった温かいケアを目指している。コロナ禍でもあり、楽しみを増やす取り組みとして、午前・午後の体操に加えレクリエーションを充実する事で利用者の方に喜んでもらえるように支援している。利用者個々の活動を増やす事で体力づくり、身体機能の維持に努め、おむつ外しの方針から殆どの利用者が日中は布パンツである。職員同士が明るく話しやすい雰囲気になるよう努め、利用者の行動、背景要因に着目し、原因・理由を追求しながら職員間で話し合いを重ねながら支援している。令和4年7月に開所し、もうすぐ一周年を迎える開所記念日として、ボランティアを招き家族交流会の準備を進めている。</p>

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	日々の申し送り時に法人理念・施設標語を唱和し、理念にあった対応が出来るか考えながら対応している。	朝礼時又は夕礼時に唱和をし、ケアを実践する上での立ち返るべき原点としている。職員全員で考えた施設標語の目標『ひとりひとりの心を受け止め、温もりを届けよう』をモットーに日々支援している。利用者の行動、背景要因に着目し、原因・理由を追求しながら支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	職員が地域清掃や行事に参加し、ボランティア活動の誘致を行うなどご利用者と地域の方の交流、地域の発展に協力している。	町内会に加入し、地域情報については案内がある。職員が年1回の地域清掃への参加、地域行事のやよい会に参加している。地域サロンの案内があれば職員のみ参加をしているが、今後は利用者も参加をする準備をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症サポーター養成講座の実施や、地域サロン等でレクリエーションや体操等を行い、介護者の相談や支援を実施している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、運営状況や日々の暮らしを報告してアドバイスをいただく事で、サービス向上に活かしている。	コロナ禍の状況を踏まえ書面又は参加型で継続している。利用状況、交流・行事等、苦情・事故など報告している。特に参加型の会議では意見交換を行い、ホームが国道沿いにあり、排気ガスなどがあるため、木を植えて欲しいとの要望から、花壇を設置した取り組みもある。	参加者の意見が運営に一定反映されているが活発な意見交換の場とは言い難い。現在は議事録が公表されておらず、参加していない家族への情報が共有されていない。今後は議事録を送付する案等、議事録公表に取り組み、より多くの家族が会議に参加することを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	・担当者とはメールや電話で連絡を密に取り、色々なアドバイスをいただいている。 ・法人内に地域包括支援センターを設置している利点を活かし、素早い連携が取れる協力関係を築いている。	市との連携は、ホーム長が担っている。市からの研修案内の情報や、そこで得た情報や報告事項があれば、事業所へ周知している。申請関係を含め、相談や質問がある時は、メールや電話で情報共有を行っている。令和4年7月の開設時から、良好な関係づくりに努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に研修会を開催し、気付かないうちに身体拘束をしていないか対応の振り返りも含め、意識して取り組んでいる。	年2回研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人グループ全体での『身体拘束・虐待防止委員会』として年4回会議を実施している。言葉の拘束、不適切なケアにならないように他事業所の取り組み状況を参考にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。	定期的に研修会を開催し、普段の対応が虐待にあたらないか、意識して取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	自立した生活の支援の「日常生活自立支援事業」と権利擁護制度の「成年後見制度」を理解し、実際制度を活用されている入居利用者へ支援を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	事前に見学をしていただき、契約を焦らすことなく十分な説明を行い、納得していただいたうえで契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族への面会、相談を行い、意見、要望を確認し、運営推進会議等で外部に報告、反映を行っている。	感染状況を踏まえ、短時間の面会、屋外での面会、電話の取り次ぎなど柔軟に対応をしている。毎月、本人の写真とホームでの生活状況のコメントを添え家族へ送付している。ケアプランの更新など本人・家族への意向を把握し、出来る限りの要望に対応している。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回ケア会議を開催し提案できる機会を設けている。	法人の基本方針『魅力ある職場、やりがいのある職場、働きやすい職場』作りを目指している。年1～2回の個別面談、業務内で職員とのコミュニケーションを図ることで、意見や提案が出やすいよう取り組んでいる。福祉用具の整備、補助食品の購入など利用者の支援の充実を図った例などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きがいのある職場づくりとして、人事考課制度を導入している。また、研修費の負担や資格取得時に祝い金が出る場合もあり、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内、社外とも研修を受講できる機会があり、職員の技術、能力の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	開設前準備期間他グループホームに研修、見学をさせて頂いたり、開設後はアドバイスをもらったりしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の話をゆっくりと相づちを打ちながら聞く事で、信頼して頂けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族様のこれまでのご苦勞、入居させることに対する不安等を話始められた時は、時間が許す限り聞いて関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>面談時や入居時等、ご本人やご家族様からしっかりと話を聞き、何を必要としているのかを見極める努力をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご利用者と一緒に掃除や洗濯、洗い物などを行い、お互いが暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>毎月ご家族にグループホームでの様子を載せた写真を送ったり、近況報告を電話や面会時にお伝えし、現在の様子が分かるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご本人の子供の頃から現在までの思い出話など聞きだしたり、居室に飾ってある写真を見ながら一緒に話をして、関係を保っている。</p>	<p>利用開始時に本人が輝いていた頃の写真を預かっている。家族からの情報、生活歴などを把握するように努めている。ひ孫さんと葉書で文通が出来るように家族に協力依頼し、実現している。守秘義務にも注意しながら元職場の同僚など馴染みの知人や友人等との関係が継続できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	他の机の利用者の方も大テーブルに誘い、皆と一緒にコーヒータイムやトランプゲーム壁画作りなど、楽しいひと時を共有してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他事業所に移られた方についてその事業所から相談があった時、こちらでの対応を親身になって教えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話で得た情報を記録に残し、情報を職員間で共有している。ご利用者の意向を尊重したケアを行えるよう努めている。	利用者の普段の様子、会話で得た情報をケース記録で共有している。例えば、本人から『ラーメンが食べたい、間食でパンが食べたい』など好きな物を把握し、健康上問題無いのであれば提供して、本人の意向を実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人から話を聞きだしたり、フェイスシートを読み把握しよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活状況、心身状態をよく観察し、健康状態については、訪問医師、看護師と連携を図り支援を実施している。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>ご本人のこれまでの生活状況や性格等、分からないことはご家族様から教えていただいたり、現在の状況で疑問に思うことがあれば、以前利用していたサービスのスタッフに教えていただいて、現状を正確に把握し介護計画を作成している。</p>	<p>利用者・家族の意向を踏まえた計画を作成している。毎日の実施表を活用し、3カ月毎のモニタリングを実施している。毎月のケア会議で利用者全員の支援の経過を評価している。本人の生活を通して、体調管理を重点にプラン作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個人のケア状況を詳細に記録している。日々の気付きや注意点等は毎日申し送りで報告し、支援計画が現状に合っているか検討し計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>季節ごとの行事や地域ボランティアを招いたサービスの提供を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>豊かな生活をしていただけるよう心掛けているが、ランチに一度お連れしたくらいしか出来ない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>協力医の往診を受診される方や、別の病院に受診に行かれる方の状態を把握し、医師に対して状態を伝えている。</p>	<p>契約時に希望を聴いているが、月2回の訪問診療や24時間の連絡体制を整えていることもあり、半数以上の利用者の主治医が事業所の協力医である。利用者個々の病状により、主治医に相談し、適切な医療が受けられるように対応をしている。必要に応じて歯科の訪問診療を受ける事が出来る。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	常駐している看護師に利用者の異変等を相談し、アドバイスや処置してもらったり、医師や訪看につないでもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	はたのリハビリ整形外科、訪問看護ステーション中野、タウン薬局と連絡を密に取り、関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居時にご家族様に説明し、意向を伺っている。また、ご利用者の状態によっては早い段階でご家族様に現状を報告し、終末期の在り方について考えていただいている。	利用開始時に家族への説明を行っている。住環境などを踏まえ、重度化した場合、その都度家族や医療関係者と方向性をよく話し合い、看取りの時期になれば法人内の特別養護老人ホームで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	年1回程度AED使用方法や研修、訓練をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に事業所内研修及び消防署の協力のもと、ご利用者にも参加して頂き実践的な避難訓練を行っている。	年3～4回の訓練では利用者と職員が合同で訓練をしている。警戒レベル、気象情報によって、1階から2階へと垂直移動できる体制を整えている。ホーム内での確保が難しいため、水、食料など備蓄に関しては、法人が一括して準備している。	夜間想定の実施ができていない。特に夜間は限られた職員数のため、訓練実施が望まれる。系列事業所と連携し、法人の災害時対応、緊急連絡網の確認など、地域ぐるみの安全対策について今一度検討し更なる取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の症状の違いを理解し、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	年1回接遇研修を実施している。例えば、トイレ使用時は必ずドアを閉める、開ける時はノックをするなど、節度ある言葉掛けを行っている。個人ファイルなど記録物に関しても他者の目に触れないように扉の中に整理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の色々な場面で自己決定を働き掛けているが、入浴等ご利用者様の意志ではなく誘導してお連れすることがある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人の希望にそって支援しているが、希望通りにすると筋力低下が予測できるような場合は希望にそえないこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	なるべくおしゃれして頂くようにしたいが、機能面から洋服を選ぶことも少なくない。定期的に理容師を招き好みの髪形にして頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は難しいが、食器洗いや盆拭きやテーブル拭き等、その時に出来るご利用者様にお願いで手伝っていただいている。	本部厨房で調理した、真空パックのおかずを利用している。可能な限り、利用者も下準備など手伝っている。年1～2回、利用者へアンケートを実施し、意見を反映している。月1回、おやつを利用者と職員が共同で手作りしている。本部にレストランがあり、今年は外食でランチを食べに行った。	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量・水分量のご利用者で変化している。栄養が不足している際は、看護師や管理栄養士と話し合い、補助食品等の提供を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後ご自身で口腔ケアをして頂き、職員が一人ひとり仕上げ磨きをしながら磨き残しがあった場合はご本人にアドバイスをしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>尿意便意がある方はなるべく布パンツ又は布パンツとパットでの対応としている。排泄パターンを把握して声掛け等を行い尿失禁を減らしたり、陰洗で肛門の状態を把握し、状態によってはウォシュレットで肛門を刺激することで排便を促している。</p>	<p>車いすスペースを確保したトイレが3カ所あり、前傾姿勢支持テーブル型手すりも設置している。利用開始時は紙おむつ使用者が、定期的な声掛け、トイレ誘導の成果から紙おむつから布パンツへ改善した事例がある。食物繊維が取れるメニュー、水分摂取、体操などを取り入れ便秘予防に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘薬ばかりに頼るのではなく、排便体操を毎日行ったり、水分摂取量を増やしたりして便秘を防ぐ工夫をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>浴室(浴槽)が一つしかないため、入浴曜日や時間は職員による順番制にさせていただいている。体調不良や入浴拒否があった場合は、都度曜日や時間変更を実施している。一人ひとりの希望にあったタイミングの入浴は困難な状況。</p>	<p>週2回の入浴を行い、皮膚トラブルがある方は、入浴以外に足浴を実施している。本人が好む、シャンプー、石鹸は自由に持ち込みができ、入浴の時間制限もしていない。入浴後は、清涼飲料水やお茶など水分摂取を行っている。ヒートショック予防で脱衣場にも暖房を設置している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	ご高齢で体力が続かない方は午前と午後 にベッドで休んでいただく時間を作ったり、起床時刻を個々に合わせてずらしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師と情報共有を行い、体調等に変化 あればすぐに看護師や往診時のDrに報告している。飲み忘れが無いように職員同士でダブルチェックを行い、お客様にも確認いただいでから服薬していただいでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりの能力を把握し、お手伝いが 出来る方、字が書ける方、計算ができる方など自分に自信を持って張りのある日々を暮らせるように働き掛けている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	ご自宅に一時帰宅できるようご家族様に 働きかけた。車の乗り降りやバリアフリーではない自宅内外での歩行のための脚力強化にむけ、運動プログラムを作り実施した。	コロナ禍でも感染対策を取って1対1で近 隣を散歩している。家族対応での外出、ドライブをしている。季節毎の外出日を設け、お花見、外食などに出掛けている。外出自粛の中での取り組みとして、ホーム内で出来る、体操やレクリエーションなどの充実を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施できていない。		

自己評価	外部評価	項目(1ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ひ孫様と葉書で文通が出来るようにご家族様に協力依頼し、実現している。面会になかなか来れないご家族様には、職員がご家族様に用事があり電話した時に入居者様ご本人に電話に出てください会話を交わして頂いている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	テーブルの上には物を置かず、気が散漫しないように気をつけている。ご利用者と一緒に季節の草花を色紙で作って壁面に飾り、季節感を演出している。	利用者と職員が共同作成した季節の飾りつけをしている。天井も高く明るく、カフェ風をコンセプトにした共有空間がある。利用者の状況により、テーブルの使い勝手が悪い場合は昇降タイプのテーブルを準備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	窓際にソファを置き、数人で日向ぼっこをしながら談笑できるスペースがある。その時の様子から、皆さんが集っている大テーブルに誘ったり、一人の席に案内し、精神的に無理のないように工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族写真を飾ったり、馴染みある物を目に見える所に置き、くつろげる環境を作っている。	利用開始前に必ず見学をして、利用の準備にあたっての書面を参考に、自宅で使い慣れた物、大切にしている物、写真など思い思いの工夫をしている。本人の身体状況、生活スタイルに応じてベッドを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご利用者の出来る事を見つけてクラブ活動に活かしたり、逆にクラブ活動から出来る事を見つけて生活に活かしている。		

V アウトカム項目(1ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の申し送り時に職員で法人理念、事業所目標を唱和し、日々の実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナ感染症対策のため、日常的な交流は行えていないが、地域の会合や地域ボランティアを通してご利用者との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の一人暮らしの高齢者を対象に瀬野学区社協と共同で「弥生会」を開催し、体操やレクリエーションを通じて交流し認知症への理解や予防となるよう地域に貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議にご家族にも参加して頂き、ご利用者の日々の様子や事業所の活動報告を行うと共に、ご意見をお聞きしながらサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	行政とは事業所運営に関する疑問点や相談など運営推進会議開催時や電話で随時、確認や相談を行い助言を得ている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>定期的に事業所内研修を行い、身体拘束についての基本的理解は出来ている。判断に迷う事があれば管理者指導のもと、職員間での意見交換が行えている。夜間は防犯、安全を優先とし玄関の施錠を行っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者のご自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>高齢者の虐待の防止・権利擁護についての事業所内研修を行い虐待防止を徹底しており、虐待のないケアが行えている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>高齢者の虐待の防止・権利擁護に関する事業所内研修を行っており、現在制度を利用されているご利用者がいる為基本的な理解は出来ている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>事前に見学をして頂き、契約書・重要事項説明書を提示、記載されている重要事項の内容について納得するまで説明を行い、合意を得てから署名、押印、契約の締結としている。また改訂があれば都度、説明し合意のもと署名、押印をして頂いている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご利用者からは直接、ご家族からは面会時や電話など日頃からコミュニケーションを図りながら、ご意見や苦情はその都度頂けており、ミーティング、申し送り等で全職員が情報共有し運営に反映出来ている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃のミーティングや会議にて疑問や相談、提案など考えや意見を言いやすい環境となっており、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の人事考課にて自己評価を行い、管理者が職員の個々の状況を踏まえ面談を行い、向上心、目標ややりがいがある環境となっている。また体調面も考慮され最大限の配慮がなされている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修を受ける機会が確保され、勤務の調整等、資格取得、研修等への配慮がなされており、目標を持って学びながら働くことの出来る環境となっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	管理者は同業者への研修、見学を行ったが他職員に関しては外部研修参加時に交流があるのみで事業所としての取り組みはコロナ感染症対策もあり実施出来ない。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	フェイスシートや生活歴、ご家族からの情報、ご本人とのコミュニケーションの中から得た要望や不安等を汲み取り職員で情報共有を行い、ケアプランに反映させる等、信頼関係の構築に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族の不安要素、困りごと、ご本人にどのような生活を望むのか等要望を傾聴し、職員間で情報共有する。ご本人の様子をお伝えしながら、気になる事は何でもお話頂くよう伝え、信頼関係の構築に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>初期段階で利用者様・ご家族様との話し合いで、必要とする支援を確認し合い対応できるように努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご利用者の意欲、健康状態に応じて、無理強いせず声掛けをしながら、共に生活するうち、お互いにいたわり合える関係が構築でき、大変そうだからと積極的に手伝ってくださる等、意欲の向上に繋がり職員が助けられる事が多くなっている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>コロナ感染症対策もあり、行事等にご家族も参加して頂いての支援は行っていないが、自宅外泊や外出の実施、毎月写真付きのお便りを送り、近況の報告を行い、消耗品の購入や嗜好品の差し入れ等、事あるごとに連絡、相談、協力しながらご本人を支える関係を構築するよう努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>コロナ感染症対策もあり、ご家族のみの面会となっていたため、支援出来ていないがご家族との外出は出来るようになったため、馴染みの人や場所との関係継続支援に努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ご利用者同士の相性を考慮し配席を行い、職員が間に入りレクリエーションを行う等して楽しく関わり合えるよう支援している。ご利用者間でのトラブルには職員が間に入ることで気分転換でき、わかまりが残らないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居されたとき必要に応じて電話で対応している。亡くなられた方には、思い出のアルバムを作成し写真をお渡し喜んでいただきました。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご自分の気持ちを言葉で表現出来ない利用者の言動の意味を表情や生活歴、ご家族からの情報等から探り、思いを汲み取り、本人の気持ちに寄り添う事が出来るよう取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	以前利用されていたサービス事業所のケアマネージャーや家族から情報を得たり、ご本人との日々の関わりやコミュニケーションを通して生活習慣等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご利用者の状況は、介護記録に詳細に記録するよう努め、特に把握すべき事項は申し送り等で情報を共有している。体調や心理状態は日内変動もあるため、経過を確認するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>日々の生活から把握した本人の意向や希望、家族の意向を踏まえ、個別記録を基にモニタリングを行い、ケア会議で職員から出された意見を参考に作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>対応、声掛けの工夫やその結果、気づきを出来るだけ、本人の言葉で個別記録に記入し情報を共有し、職員の感じ方の違い等も考慮しながら話し合い、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々のニーズに、できるだけ柔軟に対応するように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ感染状況も落ち着き始めたため、今年初めて音楽ボランティアの受け入れを行い歌を楽しまれた。またフラダンスのボランティアからの申し出もあり、楽しみある豊かな暮らしに繋がっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>以前からのかかりつけ医に継続受診されたい方はご家族対応にて受診されている他、希望されるご利用者には事業所のかかりつけ医の訪問診療があり、医療的なサポート体制がある。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職が常勤しており、バイタル・食欲・排泄・心理状況などの心身状態変化時は、報告、相談し、介護職は随時助言を受ける事が出来ており適切に医療連携が行えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を行い、退院支援の看護師やソーシャルワーカーなどと連携し、現在の状態確認や退院後のケアを含めて情報の交換をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に家族・本人に当事業所の方針について説明している。終末期について状況をみながら本人・家族と相談し、主治医を含む関係者で、入院や他施設への転居も含め適切に支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応マニュアルを作成及び法人内外研修に参加し、急変時の対応・感染症に対する処置等を学んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に事業所内研修及び消防署の協力のもと、ご利用者にも参加して頂き実践的な避難訓練を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入浴、排泄時、居室への入出時等プライバシーの侵害にならないよう配慮している。ご利用者の人格の尊重や誇りを損なわないよう丁寧な言葉かけや対応を実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意思表示が出来る方には本人の希望を尊重し自己決定できるよう働きかけ、ご自分で表現出来ない方からは日頃の表情や言動、ご家族のお話から思いを汲み取る事が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	体調や心理面を考慮し、起床、食事時間等の調整をしたり、日中の体操やレク、制作活動等もご自身の意向に添えるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	衣類の汚れや洗顔や整髪等、整容には気を配り、化粧道具等、必要なものは切らさないようにご家族にお願いしている。着る物をご自分の気分や好みで選んで頂き、生活に張りが出るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	ご利用者の能力を把握し、体調や心理状況を考慮しながら、味付けの確認、下膳、食器洗い、食器拭き等を手伝っていただいている。やりがいや達成感を持ち自発的にご自分の仕事とされている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	医師、歯科医師と連携し、一人一人の栄 養状態、嚥下、口腔内の状態を把握し、 状態に合わせた食事、水分の形態をとっ ている。栄養状態に合わせ管理栄養士と 相談、補助食品の摂取等に繋げている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施している。訪問歯 科医師の往診や歯科衛生士より指導を受 け、ご本人が磨かれた後、仕上げ磨きを 行い口腔衛生管理を徹底している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録からパターンを把握し、表情や 様子からトイレ誘導を行っている。紙パ ンツから布パンツに戻すことが出来た り、パッド内に排泄されていた方がPト イレでの排便が行えるようになるなど支 援が行えている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	温罨法、イージーファイバー摂取、腹部 マッサージ、体操、水分摂取量等看護師 指導のもと、様々な取り組みをしてい る。排便見られない時は食事量等考慮し 看護師の指示のもと緩下剤、坐薬を使用 することもある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	週2回の入浴を基本としバイタル、体調 を確認後、一緒に着替えを準備しながら 拒否がある時は時間を空けるなど、気持 ち良く入浴できるように対応している。 入浴剤や、ゆず湯等季節を感じながら楽 しむ事が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	眠れない時は、話をしたりテレビを観たり、温かい飲み物を提供している。また看護師によるハンドマッサージの施術も効果的である。日中の過ごし方も考慮しながら安眠に繋がるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報提供書を確認している。処方薬の変更があれば申し送り等で情報共有、把握し状態等の変化を医師に伝える為、観察、記録を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	生活歴や日常の会話の中から得た、仕事、趣味、得意な事、好きな事を活かした役割、楽しみごと等、最初は出来ないと拒否されていても職員の声掛けの工夫によりやる気が芽生え、自信が持てるご様子。ご本人の張り合いや喜びに繋がる支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染症対策もあり実施出来ていなかったが、これからご本人やご家族の希望に添えるよう外出支援を行っていく。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	現金の所持は、管理が難しい方が多くしていない。コロナ感染症対策もあり現在、買い物支援は行っておらず、必要なものはご家族に対応してもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(2ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族に電話をかけたいと希望された時は電話で話して頂いている。ご家族に年賀状や手紙を出したり、ご家族からも手紙をいただくこともある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間には、毎月季節を感じる事の出来る作品を利用者様と制作し、貼り出している。対面キッチンで食事作りの音やにおいなどが、食欲や時間を感じる等の生活感に繋がっている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにはソファや椅子を置き、気の合う方同士や職員と話しをしたり、パズル、テレビを見る、塗り絵をする等思い思いに過ごされている。また気の合う方と同テーブルにするなど配慮している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居時にご家族と相談し、思い出の写真や好みの置物、ご家族からのプレゼント、制作した作品など飾ることで居心地良く過ごせるよう支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室入り口には名前が掛けられていて自身の部屋を確認することができている。トイレにもプレートを掛けたり、リビングには大きな時計をかけるなどし、時間や場所がわかるようにしている。リビングや廊下は手すりが設置されていて、職員が見守りながら安全に歩行できる環境となっている。</p>		

V アウトカム項目(2ユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム瀬野じらく房

作成日 令和5年6月30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議を活かした取り組み。	運営推進会議のメンバーとの対話を重視し、意見交換を行う。提案を日々の取り組みやサービス向上に活かすようにしていく。	ホームページやブログを活用し議事録掲載を検討する。	6 カ月
2	35	災害対策。	緊急時の対応方法を各職員が把握し、もしもの時に備えて速やかに避難誘導できるようにする。	年1回は夜間の消火・通報・避難訓練をする。その後、月に1回あるケア会議時に結果を報告・問題点の改善策を考えるようにする。	6 カ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。